

春の水

梶原佑心

あなたの眸ひとみは

明るく澄んだ薄うすごおり

瞳ひとみには 山やまがある

白しろく粧まう

しずかな一尺八寸いちせちはちすん山やまがある

さようなら

口くちにした時とき 水みづの春はる

その流れには――

いつか 命いのちが産うまれよう

僕の市街いちがいは展ひろがろう

錆びた鉄橋てつきょうその上で

たそがれて

黄昏たそがれている場合ばいあひじゃないと

石いしなげて 波紋なみずね波紋なみずね 波紋なみずね

上うへからも下したからも

だれかに観みられてるよう

もうじきに 予報雨よほううが

すべての命いのちを 二人ふたりの今いまを

そつと慰なぐさめてくれよう

山やまも永えい永えい 笑わらえよう